

島本町の水質

島本町の水道水は現在2種類の浄水処理した水を混合して給水しております（※大沢地域を除く。）。1つ目は、町内各所の深井戸から取水し浄水処理した水です。2つ目は平成10年度から導入した大阪広域水道企業団（旧大阪府）の高度浄水処理水（以下「高度浄水処理水」とする。）の2種類を大森浄水場で混合しており、その割合は井戸水が約90%、高度浄水処理水が約10%となっております。

1 井戸水の浄水処理施設の概要

浄水処理施設は、深井戸を水源とし、前塩素処理による鉄・マンガンの酸化、PAC（ポリ塩化アルミニウム）による凝集処理を必要とする施設であります。

2 地下水と河川水の一般的特性

(1) 地下水

地下水は一般に良質で安全性も高いことから、水道水源としては理想的といわれています。

しかしながら、絶対に安心というわけではなく、地下水に特に含まれやすい成分物質もあります。また、地下水は河川に比べて汚染は受けにくいですが、一度汚染されると長期間にわたり汚染が続く可能性が高く、地表面が汚染されている場合は、地下水でも汚染されている場合があります。また、河川のような地表水と比べて二酸化炭素を多く溶解している特徴があります。これは、地層の成分が溶出し、無機質の溶解成分が多く含まれているためです。

(2) 河川水

河川水は絶えず流動混合しており、湖沼水のように水質変化がほとんどなく、流下中に増加するプランクトンや溶解成分が少ないという特徴があります。また、水質の年間変動が大きいといった特徴もあります。例えば、平常時は清流であっても、いったん大雨が降るとたちまち濁流となり、同時に溶解成分も激しく変化します。

このように、河川水は、外的な汚染を受けやすく、1年をとおして水質が変動する特徴をもっています。

島本町の大沢地域では、特設水道浄水場を設けており、河川水を利用しています。河川水は汚染を受けやすいことから、砂、活性炭、膜濾過により不安定な河川水質に常時対応できるよう施設整備を行っています。

3 給水栓における白い異物

町内給水栓において特に多い問い合わせとして、白い異物事例があります。これは、主に水道水中に含まれるミネラル分で、地下水を水源とする島本町の特徴であり、特に健康上の問題はありません。

なお、下記にミネラルに関連したご家庭でよく見られる現象を参考に幾つか掲載いたしますので、お役立てください。

【参考】 白い異物の参考事例

- 1 ヤカンやポットの周囲、底に白いものがつく。
- 2 冷蔵庫の氷の中央部が白く、また、解けた後に白いものが残る。
- 3 蛇口の周りに白いものができる。
- 4 アイロン、加湿器等の吹き出し口などが白くなる。